

1 貧困をなくそう



あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

法文学部 教授 宮本 恭子

宮本研究室では、松江市内を中心とする島根県生活困窮者支援ネットワークを構築し、貧困・生活困窮者対策に取り組んでいます。この取り組みは島根大学萌芽研究プロジェクト「山陰地域の生活課題解決に向けたアプローチ方法の探求と構築」2016年4月～2018年3月に始まり、続いて島根大学法文学部と人間科学部の連携による「生活困窮者支援プロジェクト」でも行いました。

また、松江市内の病院、島根大学医学部医学科の学生との協働体制のもと、「病院からはじまるまちづくりプロジェクト」も行っています。近年医療現場では、経済的困窮や医療アクセスの問題から必要な医療を受けられない住民が増えています。さらに、島根県内の行政機関、民間機関とも連携して、生活者としての外国人労働者の実態調査や支援体制構築の活動も行っています。これらの活動を通して、生活困窮者、生きづらさを抱える人、ひきこもり、外国人労働者などすべての人々が貧困・生活困窮の問題から解消され、生活の質の向上を目指せるよう、支援の充実に尽力しています。

地域発
自立支援を必要とする人、とつながる

これからの
生活困窮者を考える
シンポジウム

生活困窮者自立支援法については、平成27年4月に施行され、3年目を迎えました。それはまだ途についたばかりであり、さらに広がりのある課題に向けて着実に進んでいく必要があります。同時に、貧困を脱却して地域の生活課題を解決し、支援を必要とする人の自立に向けて、包括的な支援を構築することが必要です。そのために、島根県でも、各自治体で、地域資源の活用や様々な地域資源の「連携」を探る取り組みが始まっています。これは、自治体・住民・自治体・企業・非営利団体等の様々な組織で、山陰地域における経済的・社会的な生活困窮者支援を考えるのが今回のシンポジウムです。

【日時】 2018年1月27日(土) 13:00～15:45
【会場】 島根大学松江キャンパス 大学会館3階大集会室



シンポジウム・ディスカッション